

私立学校専門研修会 次世代リーダー育成部会

実施報告

◇主催 一般財団法人日本私学教育研究所 ◇後援 日本私立中学高等学校連合会
研究のねらい

未来を輝かせる私学 ～新たな夢を紡ぐリーダーとは～

少子化や経済不況、感染症の流行、災害の影響などによって、学校経営環境が著しく変化する中であっても、学校が未来永劫的に存続・発展し、子供たちの未来の礎を築くことは社会的な使命である。学校経営者には、変化に柔軟に対応し的確な決断を下すための「知識と創造力」が求められており、将来的に学校経営の舵取りを任せられることになる経営後継者の役割と責任は益々大きくなっている。当部会では、自校の建学の精神、歴史を深く理解した上で、次の時代を見据え、自校と経営後継者の理想とする将来像を描き出すための考え方や視点を学び、その実現に向けて教職員と連携し自律的に行動するために必要となる様々な知識やスキルを習得する。また、現職の学校経営者が理想や現実を語り、その経験から得られた教訓などを次世代に伝えるとともに、関係者とのネットワークづくりや情報交換の場とする。

新型コロナウイルス感染拡大以降、危機に迅速に対応し、乗り越える力を持った強いリーダーが以前にも増して求められている。本年度の当研修会では、これからの時代に新しい夢を紡ぎ、子どもたちの未来を輝かせる私学のリーダーとなるために必要なものは何かについて考察を深めていきたい。

1日目は、初めに吉田晋・日本私立中学高等学校連合会会長／当研究所理事長（中央教育審議会委員）、近藤彰郎・日本私立中学高等学校連合会副会長／当研究所理事が、私学を取り巻く最新情勢や課題について講話する。基調講演では、麻生泰・麻生セメント株式会社代表取締役会長／学校法人福岡雙葉学園理事長を講師に迎え、企業家そして私学のトップリーダーとして新しい時代のリーダーに望むことについて講演を行う。

2日目は、「できないことを嘆くより、できていることを認め合う」という考えにもとづき、サポート教室、ワールド授業、職場体験実習等、独自の授業を展開する立花高等学校を視察する。視察では、齋藤真人・立花高等学校校長からの講演と施設見学等を行う。

ネットワーキングパーティ・パワーランチ等の交流プログラムでは、リーダーが本音で語り合うネットワーク構築の機会を提供する。

会 期 令和2年10月12日（月）～13日（火）

開催地・会場 ホテル日航福岡

福岡市博多区博多駅前2-18-25（JR博多駅・博多口から徒歩約3分） TEL 092-482-1111（代）

参加者数 50名

参加対象

- A. 次世代リーダー（次世代の理事長・校長等）を志す者
- B. ニューリーダー（新任の理事長・校長等）
- C. 次世代リーダーを育成する現職リーダー（現職の理事長・校長等）

※ 参加対象校：都道府県私学協会加盟の私立中学校・高等学校・中等教育学校

基本日程

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
	30			30		50			30	30
10月12日				受付	開会式 メッセージ	講話	基調講演		ネットワーキング パーティ	
10月13日	移動	学校視察／講演／パワーランチ			移動					

※プログラムは変更になる場合があります。

☆プログラム

① 講話

- 近藤彰郎** 一般財団法人日本私学教育研究所 理事
日本私立中学高等学校連合会 副会長
- 吉田晋** 一般財団法人日本私学教育研究所 理事長
日本私立中学高等学校連合会 会長（中央教育審議会委員）

② 基調講演

- ◆演題 「私立学校経営者に求められるもの」
- ◆講師 **麻生 泰** 麻生セメント株式会社 代表取締役会長
学校法人福岡雙葉学園 理事長

〈講師プロフィール〉麻生 泰（あそう ゆたか）

1946年福岡県生まれ、慶應義塾大学法学部法律学科卒業。英国オックスフォード大学ニューカレッジを卒業後、大沢商会に勤務。1977年麻生セメント株式会社に入社。政治家に転向した兄・太郎氏の跡を継ぎ、1979年に社長に就任、2000年会長に就任。現在、株式会社麻生代表取締役会長、麻生セメント株式会社代表取締役会長、学校法人福岡雙葉学園理事長、学校法人麻生塾塾長、学校法人慶應義塾評議員、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会理事、福岡地域戦略推進協議会会長、一般社団法人九州経済連合会会長等多くの要職を務める。モットーは「九州から日本を動かす」。

③ ネットワーキングパーティ

研修会を振り返りながら、参加者、関係者のネットワークを築き、絆を深める為の懇談夕食会（着席形式・全員参加。懇談会費は参加費に含む）。

会場「[ホテル日航福岡](#)」 福岡市博多区博多駅前 2-18-25

④ 学校視察

立花高等学校 福岡市東区和白丘 2-24-43（JR 鹿児島本線「福工大前」駅下車 徒歩 15 分）

学校法人立花学園 理事長 水落清十郎 / 立花高等学校 校長 齋藤真人

立花高等学校は、「一人の子どもを粗末にすると、教育はその光を失う」と言う、創立者安部清美の理念を建学の柱に据え、近代史では「不登校生徒の自立支援」に取り組む全日制・単位制・普通科の高等学校である。長く定員充足率が50%を割る苦難の経営の時代を乗り越えて、今では不登校生徒の希望の光として全国から視察が後を絶たない先進実践校として注目を集めている。

学校まで登校できない生徒のための「学校外教室」や、校内での「サポート教室」の開設、デュアルシステムを通しての日常的な職業訓練の実施、卒業生の就労支援のためのNPO法人を設立しての学食運営等、他に例を見ない独自の取り組みを通じて、入学時不登校経験者が7割以上占める中、全体の約9割が卒業を達成する等大きな成果を上げている。

今回は、日常の取り組みの中でもきわめて特徴的な「体験型授業」の様子を中心に視察頂く。地域の公民館や自治協・社協との理想的な協力関係の中、10を超える体験コースを生徒が選択し、生き生きと活動するありのままの姿をご覧いただきたい。

教職員と生徒が垣根なくのびのびと醸成した、穏やでおおらかな独特の校風も、あわせてご覧いただきたい。

☆視察プログラム

講演

- ◆演題 「「毛糸玉2個の物語」～未曾有の経営危機が生んだ迷いなき教育実践～」
- ◆講師 **齋藤真人** 立花高等学校 校長

〈講師プロフィール〉齋藤真人（さいとう まさと）

1967年宮崎県生まれ。1990年宮崎大学教育学部を卒業後、宮崎県の公立中学校で音楽教諭として勤めた後、2004年に36歳で教頭として立花高等学校に赴任。2006年から同校の校長に就任。2015年度文部科学省「不登校に関する調査研究協力者会議」委員。不登校生徒自立支援に取り組む立花高等学校の教育は、子どもや保護者から支持を得ている。座右の教育論は「共にいる」。

施設・授業見学

全体会 質疑応答・視察校教員との意見交換など

⑤ パワーランチ

会場「[Mama's CAFE](#)」 立花高等学校内

☆研修会日程・プログラム☆

プログラム・内容は変更となる場合があります。

【1日目】	10月12日(月)	〔全体会場 ホテル日航福岡 本館3階 都久志の間〕
12:30～ 13:00	受付	本館3階 <都久志の間>
13:00～ 13:50	開会式	司会 川本 芳久 一般財団法人日本私学教育研究所 理事・事務局長 ☆開会 ☆研修会運営方針説明 菅沼 宏比古 次世代リーダー育成専門委員長 ☆来賓・役員・専門委員紹介／日程説明 ☆メッセージ 平方 邦行 一般財団法人日本私学教育研究所 副理事長
14:00～ 15:00	講話	近藤 彰郎 一般財団法人日本私学教育研究所 理事 日本私立中学高等学校連合会 副会長 吉田 晋 一般財団法人日本私学教育研究所 理事長 日本私立中学高等学校連合会 会長(中央教育審議会委員)
15:00～ 16:30	基調講演	司会 森 涼 次世代リーダー育成専門委員 講師紹介 吉田 晋 一般財団法人日本私学教育研究所 理事長 ☆演題 「私立学校経営者に求められるもの」 ☆講師 麻生 泰 麻生セメント株式会社 代表取締役会長 学校法人福岡雙葉学園 理事長 ※1時間の講演後、30分間質疑応答を行います。 謝辞 近藤 彰郎 次世代リーダー育成専門委員
17:00～ 18:30	ネットワーキングパーティ(着席形式)	本館5階 <志賀の間> 司会 梅村 光久 次世代リーダー育成専門委員 ☆開会挨拶 中川 武夫 一般財団法人日本私学教育研究所 理事・所長 ☆乾杯 ☆懇談
【2日目】	10月13日(火)	
9:00～ 9:30	移動	(※ホテル日航福岡から貸切バス) ※8時50分までに1階メインロビー(ソファア付近)にお集まり下さい。直接学校へのご移動はご遠慮下さい。
9:30～ 12:30	学校視察	立花高等学校 福岡市東区和白丘2-24-43 【視察プログラム】
9:30～ 10:30	講演	☆演題 「「毛糸玉2個の物語」～未曾有の経営危機が生んだ迷いなき教育実践～」 ☆講師 齋藤 真人 立花高等学校 校長
10:30～ 11:30	施設・授業見学	
11:30～ 11:40	全体会	質疑応答・視察校教員との意見交換など お礼のことば 前田 均 次世代リーダー育成専門委員
11:40～ 12:30	パワーランチ	「 Mama's CAFE 」 立花高等学校内 総括 菅沼 宏比古 次世代リーダー育成専門委員長
12:30～ 13:00	移動	(※貸切バスでホテル日航福岡へ) 解散

◆概要◆

本年度当部会は、10月12日（月）～13日（火）、福岡県福岡市・ホテル日航福岡において「未来を輝かせる私学～新たな夢を紡ぐリーダーとは～」を研究のねらいに、新型コロナウイルス感染症への感染対策を十分に講じた上で開催し、16都府県から50名が参加した。

初日は開会式では菅沼宏比古・次世代リーダー育成専門委員長の運営方針説明につづいて、平方邦行・当研究所副理事長が参加者へのメッセージを述べた。講話では、近藤彰郎・当研究所理事、吉田晋・当研究所理事長による講話、麻生泰・麻生セメント株式会社代表取締役会長／学校法人福岡雙葉学園理事長による「私立学校経営者に求められるもの」を行った。初日最後のプログラムとしてネットワーキングパーティを行い、参加者は情報交換を行うとともに交流を深めた。

2日目は立花高等学校への学校視察をおこなった。齋藤真人・同校校長からの講演「「糸玉2個の物語」～未曾有の経営危機が生んだ迷いなき教育実践～」、施設・授業見学、全体会を行った。最後に、立花高等学校内Mama's CAFÉでパワーランチを行い盛会裡に終了した。参加者からはコロナ禍の中でも開催されたことに対して感謝の声が多数寄せられた。

メッセージ

一般財団法人日本私学教育研究所 副理事長 平方邦行

我々はZ世代と言われる子どもたちを教育している、彼らが活躍する時代を見据えて教育を行う必要がある。知識偏重から批判的創造的思考力を求める教育に、一方的に教えるから、学ぶという認識に代わっている。世界では、クリエイティビティーを最優先に養成する授業が行われている。暗記が最大の学びと思われていたが、今は、学んだことをどう追求するかが重要だ。日本でも私立学校が先頭に立って、日本の教育を変えていかななくてはならない。



講話

一般財団法人日本私学教育研究所 理事 近藤彰郎
日本私立中学高等学校連合会 副会長
一般財団法人東京私立中学高等学校協会 会長

私立学校は建学の精神に基づいて各学校が創意工夫をして教育を行っている。しかし、それを支える私立学校の自主性、学校法人制度を守るのは本当に大変なことだ。「私立学校法」、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」などの法律やその成立した背景を学び、様々な問題に対応することを忘れてはいけない。先人達が努力して築いた私立学校の自主性を守っていくために、これからもお互いに協力して行ってほしい。



一般財団法人日本私学教育研究所 理事長 吉田晋
日本私立中学高等学校連合会 会長

教育は私学からという言葉がある。建学の精神に基づく教育が多数あることが、日本の教育を良くしているという自負がある。我々は未来の子どもたちのために、教育に命をかけている。学校の体面とか、都道府県の体面ではない。これからの日本を立て直してくれる子どもたちの代弁しているのが我々だ。何も発言をしなければ何も変わっていかない。人と人のつながり、ネットワークを財産にして、お互いに力をあわせて行ってほしい。



基調講演 「私立学校経営者に求められるもの」

麻生セメント株式会社 代表取締役会長
学校法人福岡雙葉学園 理事長

麻 生 泰

まず感謝が大切です。例えば、校長先生は理事長からポストを任されている立場です。重要な職務を任されて不安に感じるかもしれませんが、選ばれたのですから、明るく対応して、自分の道を進んで頂きたいと思います。



リーダーに大事なことはビジョン・使命感をはっきり出すことです。学校の方向性を常に明確にして、自分たちの特色・尖りを出していくための方針を書いてリーダーが説明し、自分たちの強み・良いことは積極的に広めていきます。リーダーがぼやく、悔やむ、評論家になる、そういうことではいけません。学校と病院は良いものであればロケーションは関係ありません。トップがビジョン・ロマンを持つことで、どんどん伸びていけると考えています。日本の先行きは厳しいが、教育の重要性は高まっており、チャンスでもあります。しかし、リーダーがぼやいていたらピンチになります。私は、動かさない事実と自分の強みを踏まえて、どうやって生き残っていくのかを考えています。生き残って行くための強みを打ち出し、物事が動くまで動かします。試してみただけでも、動かなかったということではいけません。どうすれば動くのかを考え、チームになって共有する目標をつくり、実行し、動かしていきます。一人で解決できないことを解決するためにネットワークが大切です。明るい職場づくりということもカギになります。

これからの教育を考える上で、日本人の積極性の無さ、英語力が低いことで国際的な存在感が希薄になっていることが大きな課題です。地球上で日本語を理解できる人は世界人口のわずか2%です。我々はコミュニケーションを通じて、お互いの人柄を見抜いています。これは翻訳の機械を使用してはできないことです。これからは、英語プラスもう一言語を身につけて、自分の意見を言える子ども、世界の人とコミュニケーションをとれる子どもを育てていきましょう。

そのために教員の質向上が必要です。教員は非常にハートナイスな良い方が多くいらっしゃる。一方で、自己成長してない教員は「教」ができて、「育」はできないと思います。生涯を通じて学習し、自己成長して光っていないと、生徒は教員についていきません。各学校のリーダーは研修会などを通じて、全体を見る機会、語る機会を作り、教員を勇気づけ教員の初心の志を思い出させるような刺激を与え、自己成長して貰うことがリーダーとしてのやりがいでもあり、責任があるところです。リーダーの魅力なしには動かせません。

私立学校の教育は非常にやりがいがあります。私立学校には柔軟性があり、スピード感のある運営ができます。我々が真剣に取り組めば、これからも勝ち抜いていけると考えています。皆さんと一緒に良い教育をつくっていきたいと思っています。

ネットワークングパーティ

中川武夫・当研究所理事・所長の挨拶の後、参加者より指名された簡野裕一郎・蒲田女子高等学校副理事長・校長が乾杯の挨拶を行った。懇親会では全国からの参加者が、お互いの取り組みや現状について、幅広く情報交換を行った。最後に、森涼・次世代リーダー育成専門委員より参加者への激励とともに今日築いたネットワークを大切にしてほしいと挨拶があり、初日を終了した。



中川武夫・理事・所長



次世代リーダーによる乾杯



森涼・専門委員

学校視察

2日目は立花高等学校の視察をでは、水落清十郎・学校法人立花学園理事長の学校紹介、歓迎の挨拶に続いて、齋藤真人・立花高等学校校長による講演、施設・授業見学を行った。熱のこもった講演には多数の質問があり、参加者の刺激となった。

施設・授業見学では、ゆったりとした明るい学校の雰囲気、授業の様子など普段の取り組みを視察し、Mama's CAFÉ でパワーランチを行い終了した。



水落清十郎・
学校法人立花学園 理事長

講演

「毛糸玉 2 個の物語」～未曾有の経営危機が生んだ迷いなき教育実践～

立花高等学校 校長 齋藤 真人

創立者の安部清美の言葉、「一人の子どもを粗末にするとき教育はその光を失う」が本校の礎だ。この理念を外れてはいけなさと考えている。理念の実践はセーフティーネットだ。

本校は全日制・単位制・普通科の学校だ。一般的には全日制の学校とミスマッチした生徒の受け皿は通信制か定時制の学校だが、我々は子供たちを学校制度に寄せるのではなく全日制の限界を広げ、学校制度を生徒に寄せて教育を行っている。生徒募集と広報に使うエネルギーも教育に向けている。学校の立場や実情を知ってもらおう努力はしているが、生徒を集めるのではなく、来てもらう学校にする。校舎内には生徒がデザインしたりラックスできる空間があり、禁止語句は掲示せず、芸術作品もそのまま飾ってある。教室も様々な特質をもつ生徒に配慮した掲示を行い、教室に入れない生徒のために廊下に机を配置している。

地域の方から立花高等学校は良くなったと言われることがあるが、学校を変えようとは一度もしていないし、生徒は常に心優しかった。我々が胸を張らないと、生徒も胸を張れない。ネガティブはポジティブに解釈し、生徒を認める雰囲気を教職員から醸成した。地域の方と会議を行い、理解が進んだことで、本校を見る周囲の目に変化していった。

我々はできないことを嘆くのではなくできることを認め、生徒、保護者のすべてを受け入れる受容と共感的理解によって、生徒の自尊感情と自己肯定感・有用感を満たし自立を目指している。不登校を克服するのではなく、不登校の生徒が安心して不登校を続けられる教育をしている。結果、生徒が学校に登校できるようになっている。本日はありのままの様子を見てもらいたい。



施設・授業見学

施設・授業見学では、授業、学校の日常、施設の様子や生徒の様子を自由に視察し、参加者それぞれにとって大いに参考となるプログラムとなった。



廊下の掲示物を見学する参加者



授業見学

総括

菅沼宏比古・次世代リーダー育成専門委員長は以下のように総括した。

当研修会を通じて多くの情報交換をされたのではないかと。各学校がそれぞれの状況で取り組んでいたことが力になる。学校に戻られたら、先生方にはご自身が動く姿を生徒に見せてほしい。生徒たちは私たちのことをよく見ている。幼稚園でも中学校・高等学校でも同じだ。

今回の経験がすぐに役立つわけではないが、いつか役立つと信じている。この経験を宝にして、また来年参加してほしい。



◆ 講師・指導員（順不同） ◆

麻生 泰	麻生セメント株式会社 代表取締役会長／学校法人福岡雙葉学園 理事長
齋藤 眞人	立花高等学校 校長
吉田 晋	富士見丘中学高等学校 理事長・校長
近藤 彰郎	八雲学園中学高等学校 理事長・校長
平方 邦行	工学院大学附属中学高等学校 校長
中川 武夫	蒲田女子高等学校 顧問

◆ 専門委員・指導員（順不同） ◆

菅沼 宏比古	学校法人西海学園 理事長
近藤 彰郎	八雲学園中学高等学校 理事長・校長
森 涼	学校法人石川高等学校・石川義塾中学校 理事長・校長
梅村 光久	学校法人三重高等学校 理事長
前田 均	鹿屋中央高等学校 理事長・校長
川本 芳久	一般財団法人日本私学教育研究所 理事・事務局長

～参加者からの声～

◆ 当研修会への参加の目的についてお書き下さい。

- 現状維持と思考停止の状況を何とかすべく、ヒントを得るため。
- 自己研鑽、日本の教育トップと経営トップの考えを学ぶため。
- 今後の学校改革（運営）のヒントを得るため。ネットワークを構築していくため。

◆ 当研修会の各プログラム・内容等について、参考になった点、感想、意見等をお聞かせ下さい。

【講話】

- 私立学校と地方教育行政の関わりについて再認識できた。対応も含め、行政との対応を真剣に取り組む必要を感じた。吉田理事長の講話は新鮮でいつものことながら、大変有意義でありがたい。
- First Class の若者から Creative Class の若者を創り出す学校経営が大事である。実践していきたい。
- 私立学校に対する熱い思いが伝わってきた。それが各校の特色化、魅力化になっていることが分かった。
- 当たり前だと思っていた私学教育が各団体や先輩方の努力の末に守られてきたものであることを恥ずかしながら初めて知った。私も微力ながら尽くしたいと思った。

【基調講演 麻生先生】

- ビジョン・使命は書くこと、常に整理して、方向性を示しておく。本校は吹奏楽部・美術を尖り（文化部の目玉）にしたい。笑顔とすべてに肯定的にとらえること。
- とても分かりやすかった。「尖りを作ること」「スピード感がある運営」言葉が印象的だった。
- どのような学校を目指すかを明確に示すことがリーダーの仕事であり、それを実行するために人を動かし、どうしたら動くかを考えることが仕事であることを忘れずに頑張りたいと感じた。
- 私学研修を経営、人的対応、対策をしっかり考えて行うことが大切であることが分かった。ビジョンや使命感、方向性を示す、書く、小冊子にするなど、校長と共に協力してやっていきたい。
- 校長 2 年目になるが、本当に自分でよかったのだろうかかと自問自答し、少々不安になっていたが、麻生先生の「選ばれたんだから」という言葉に元気をもらった。

【ネットワーキングパーティ】

- 他校の先生方と悩みを共有し、懇親を深めることができた。様々な環境、立場の先生方と交流を深めることができ、有意義な時間だった。
- 他校の状況（ICT の状況など）が分かり、参考になった。（5 件）
- 多くの方々とネットワークができ、話題もコロナだけでなく、教員の勤務の在り方など、多岐にわたり意見交換ができた。

【学校視察】

- どの先生方にお会いしても、立花高校の思い、在り方、全て同じように答えられていたのが印象的だった。
- ICT を使った授業が進んでいるように思えた。先生方の愛情が目に見える形で伝わった。生徒が安心して通える空間、声かけ、開放的な職員室、ハード面も素晴らしいと思った。
- 細やかな授業、学校活動が行われている点、生徒が自然に学校生活を送っている点が素晴らしい。施設の広さもよく検討されていると思った。また、才能ある生徒を伸ばす指導、手助けもしっかり行われている（書道、絵画など）点も、時間や手間を十分にかけておられるのだろうと感じた。
- 生徒にストレスを感じなかった。掲示も全て「です・ます」か「～よ・～ね」で、気持ちが通じ合う生徒と教員の関係が感じられた。
- 全生徒がマスクを着用していることに感心した。当たり前のことだが、それを全員ができていることに驚いた。
- 内面から溢れる自校の魅力を、自信を持って話される姿に感銘を受けた。また、インクルーシブ教育の原点を感じることができ、大変参考になった。
- 教育の原点を見る思いがした。本来、学習あるいは学校は自分で学ぶことの筋道を知ることから始まり、教師から学び、そして自分で学ぶことが重要であろう。生徒一律の教育現場（現状）、それは日本の教育の在り方が「平等」に過剰反応し過ぎているきらいがあるので、一律ではない、人間の多様性、社会の在り方に一石を投じる教育活動をしている。立花高校の雰囲気はとてもよい。ゆったり明るい学校、素晴らしい！

【講演 齋藤先生】

- 生徒が安心して不登校でいられる環境であることは、驚きだった。生徒募集をしない、すべて受容と共感、セーフティーネットを貫く、考え・発想が逆であった。全職員を醸成されている。刺激を受け、素晴らしい講演だった。
- できることに重点が置かれ、常に前向きに生徒に寄り添っている姿がイメージできた。教育の本質を考えさせられた。
- 「一人の子どもを粗末にするとき、教育はその光を失う」感銘を受けた。学校事情は違えども、恒久の教育の原点だと痛感した。できるならば、本校数名での研修として、学校視察させていただきたいと思った。
- 現在の立花高校が「変わった」ではなく建学の精神の延長にあるという捉え方をされているのが興味深かった。
- ◆当研修会へのご意見ご要望がございましたらお書き下さい。
- 近藤先生、吉田先生のお話を長く・詳しく伺いたい。
- コロナ禍でも開催いただいたことに大変感謝。(5件)
- とても参考になった。機会があればまた是非参加したい。(2件)
- 観点別評価など、新教育課程実施に向けたポイントや問題点などの研修会、ICT研修など。
- 転出ということが基本的にはない私学にとって、こうした横断的な全国研修会は強みの1つと感じた。色々なステージで教員を参加させられればと思う。
- 初めて参加し、経営という面から新たな考え方を勉強することができ、充実した研修となった。

◆都道府県別参加者数◆

No	都道府県名	人数	No	都道府県名	人数	No	都道府県名	人数
1	北海道	0	17	石川	0	33	岡山	0
2	青森	0	18	福井	0	34	広島	1
3	岩手	0	19	山梨	0	35	山口	0
4	宮城	1	20	長野	0	36	徳島	0
5	秋田	0	21	岐阜	0	37	香川	0
6	山形	0	22	静岡	3	38	愛媛	0
7	福島	0	23	愛知	1	39	高知	0
8	新潟	0	24	三重	1	40	福岡	19
9	茨城	1	25	滋賀	0	41	佐賀	3
10	栃木	0	26	京都	2	42	長崎	0
11	群馬	0	27	大阪	5	43	熊本	1
12	埼玉	0	28	兵庫	1	44	大分	0
13	千葉	2	29	奈良	0	45	宮崎	0
14	神奈川	2	30	和歌山	0	46	鹿児島	2
15	東京	5	31	鳥取	0	47	沖縄	0
16	富山	0	32	島根	0			
16 都府県						計		50